



(左から)寺本孝志朗さん、大前陽愛さん、長田響輝さん、長谷川愛綾さん

## 自転車きちんと乗れるかな？

7月27日に県交通少年団自転車安全大会が開催され、可児署管内代表として東明小学校の6年生児童4人が参加しました。大会では合図を出しながら安全に走行できるか、複雑なコースを正確に走行できるかを審査する実技テスト、学科テストの合計点で順位を競いました。

結果は団体の部で出場17チーム中3位、個人の部では2人が入賞という好成績。5月からほぼ毎日取り組んだ練習の成果が実を結びましたね！

## 年々パワーアップ!!!

8月5日に、ROCK FILL JAM in ala 2018が開催されました。音楽はもちろん、フェスといえば飲食も魅力のひとつ。「フェス飯サミット」と題して14の飲食店が参加。各店自慢の旨い飯・お酒・スイーツで来場者を満足させました。マルシェでは製作者と直接話して、気に入った小物やアクセサリを手にする人も。

一日限りのクリエイティブなフェス。来年の開催が今から待ち遠しいですね。



音楽×マルシェ×美味しいもの

## 子どもも大人も、みんな寄っておいで！

7月28日広見地区センターで、駄菓子販売を通じて多世代の交流を図る「ひろみ駄菓子屋横丁」が開かれました。

今年4月に公民館は地区センターへと移行し、住民の皆さんの拠点としての役割が期待されています。広見はそのモデル地区として、他の地区にも広がるようその先駆けとして行われました。

子どもや大人それぞれが開く駄菓子屋や、射的に輪投げなど多数のブースが用意され、会場は大にぎわい。子どもたちが仕入れから店番まで勤めるお店には、商品を取りやすいような配置にしたり、暑さを考えて溶けやすいものは商品に選ばなかったりと、多くの工夫が施されていました。

子どもの店員さんは「たくさんお客さんが来てくれて、売れ行きの調子が良い」と笑顔で話してくれ、昭和の懐かしい雰囲気を感じる1日となりました。



にぎわう駄菓子屋の前で呼び込みをする店員さん



これからの地区センターに期待する親子



作品の説明をする加藤さん(左)

## 志野や瀬戸黒の奥深さを多くの人に

人間国宝の加藤孝造さんによる71作品が、8月2日可児市に寄贈されました。加藤さんは故荒川豊蔵氏と窯に適した場所を探し回り、風の吹き方や斜面の角度などから久々利平柴で窯を開き作陶。

加藤さんは「可児で焼いたものを可児に残したい。思い入れのあるものばかりで、自分自身を預けるのと同じです」と話しました。今回寄贈された作品の一部は可児郷土歴史館で10月6日から展示されます。



化石のレプリカに大興奮な児童

## ふるさと可児のいいところ

7月18日に今渡南小学校で「えがおのもと交流会」が行われました。1日講師として市長が授業。可児で発見された化石や歴史上の人物などを紹介し、「これから自分のまちのいいところを発見して“ふるさと可児”を大好きになってほしい」と伝えました。後日、児童から「歴史を引き継いでくれた人たちに感謝。大人になっても可児に住みたい」「いじめのない、笑顔の学校にしたい」など、手紙でお礼や抱負が届きました。

## 遠く離れた地で桜咲く

8月7日、可児ライオンズクラブや可児造園協同組合が中心となって活動している桜プロジェクトチームが、外務大臣表彰の受賞を市長に報告しました。ベトナムで毎年500本の桜の苗木を植樹し、これまでに植えた数は3,500本。その活動が認められての受賞です。

現地では子どもたちと一緒に植えるなど、7年間ボランティア活動を行っています。そうした交流を通じて将来お互いを助け合える社会になるといいですね。



桜プロジェクトチーム(中京地区ベトナム友好協会所属)の皆さんと富田市長(右から3人目)

## 初めての赤ちゃんにドキドキ

ドキドキ赤ちゃん ふれあい体験を7月25日にマーノで行いました。この日は市内の中学校から8人が参加。4か月健診で訪れた親子と交流しました。

どの参加者も自分と赤ちゃんの手の大きさを比べてみたり、抱きかかえてみたりと、初めて触れる赤ちゃんに緊張しながらも興味津々。「思ったより重いけれど、とても可愛い」と命の大切さや温かさを肌で感じ、感動していました。



赤ちゃんとのふれあいを楽しむ参加者